

【実施報告】2024年7月28日 東京ボランティア・市民活動センター  
中高生のボランティアグループ「VIOLET!!」海のワークショップ

# 「日本の海と環境を考えよう」

伊東久枝・三好直子（海的环境教育 NPO bridge）



## 概要

東京ボランティア・市民活動センター主催のボランティアグループ「VIOLET!!」は、学校の部活・同好会・生徒会または個人でボランティア活動を行っている、やってみよう！と思っている中高生のネットワーク。活動は1年単位でテーマを決めて、月に1回集って、情報交換をしたり、一緒にボランティア活動をしたりしています。今年のテーマは「環境」「福祉」「動物愛護」の3つ。このなかの「環境チーム」が海のプラスチックごみ問題に取り組むということで、ゲストティチャーに呼ばれ、ワークショップを行いました。

オーダーは「海のプラスチックごみ問題」でしたが、そこに焦点を合わせる前に、「日本の海の豊かさ」や「森と海、私たちの暮らしのつながり」を知って欲しいと思い、LAB to CLASSの教材や動画などを使って話題を提供。その後、海的环境改善のためにできるアクションを考えました。

環境問題やボランティアに関心が高い高校生や、サポーターの大学生が参加したワークショップは、少人数でしたが意欲的で、「今後のアクション」のメッセージも、思いのこもったものが多く見られました。

- ◆ テーマ：日本の海と生物多様性／海と森のつながり／海洋プラスチックごみ問題
- ◆ 学習目標：
  - 1) 「食べる－食べられる」でつながる、海の生物のつながりを知る
  - 2) 海の野生生物「イルカ」の社会を知る
  - 3) 森と海、人間生活のつながりに気づく
  - 4) 海洋プラスチックごみの発生源を知り、解決に向けたアクションを考えられるようになる
- ◆ 体験者：高校～大学生 7名
- ◆ 実施場所：東京ボランティア・市民活動センター 会議室
- ◆ 実施時間：2024年7月28日 13:30～15:30
- ◆ 使用教材：1) 海洋学習教材 LAB to CLASS <https://lab2c.net>  
 《実物大のイルカをつくろう！》実物大イルカ模型  
 《餌の餌の餌は何？～海の世界連鎖 北の海／磯・外洋／サンゴ礁》  
 2) 動画『私たちの暮らしと海』 提供：若築建設株式会社  
 ①森と海をつなぐ  
 ②海洋プラスチックごみはどこから来たの？  
<https://www.youtube.com/channel/UCYZuhZxsMQprLQLnSX19M1Q>
- ◆ 協力：若築建設株式会社／御蔵島観光協会

## ◎活動の様子



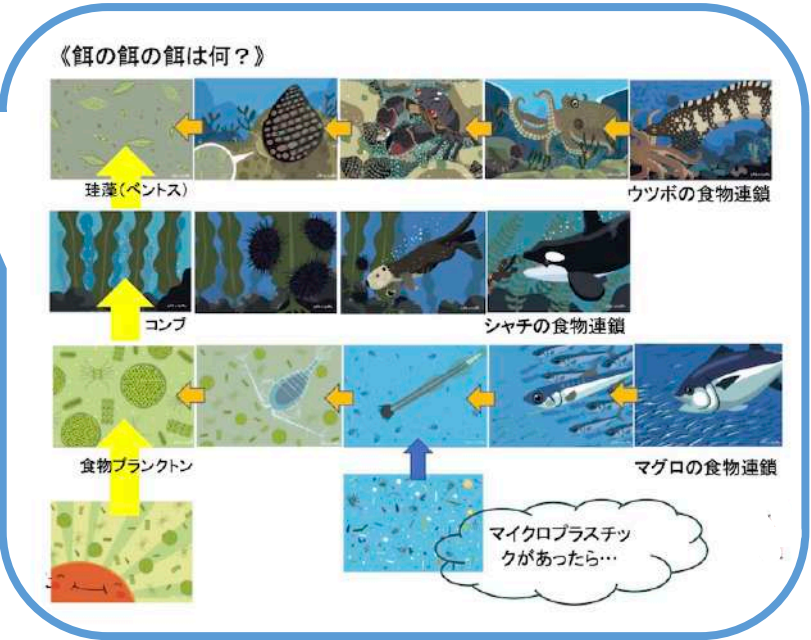
↑人間は海の生物ではないが、海の生態系の上位捕食者！多くの海の生物に支えられて生きている。

→海の世界連鎖も基盤はやはり「植物」

### 【日本の海の、生物多様性】

さまざまな生物が描かれたカードから、異なる10種の世界連鎖を見つけ出し並べてみると、そこにはラッコやトドが棲む北の海から、色鮮やかな生物が生息するサンゴ礁の海まで、日本の多様な海の様子が浮かび上がります。

そして「つながり」の中で育まれる命と、基盤となる海の植物「プランクトン／海藻」の大切さ、マイクロプラスチックが生物に取り込まれる仕組みなど、多くのことを実感します。





**【野生イルカの暮らし】**

東京都御蔵島に生息する野生イルカの実物大模型と、研究者が撮影した水中映像を使って、イルカの体の仕組みや野生イルカの生態を紹介しました。

水族館で見慣れたイルカが、東京からほど近い海で独自の社会を持って暮らしていること。その様子を知ることで、私たち人間の暮らしは多様な生物の社会と隣り合わせに、この地球を共有しながらあることを感じてもらえていたら嬉しいです。

↓御蔵島のイルカは多様な行動が確認されている



群れで生活するのはなぜ？  
親子・友だちとのとっておきの  
コミュニケーション方法は？

イルカが近づいてきて  
笑った？  
それは大きな誤解かも



御蔵島のイルカをモデルに作られた LAB to CLASS 教材《実物大のイルカをつくろう》↑

**【森・町・海のつながりと  
海洋プラスチックごみ問題】**

かつて4大工業都市といわれ日本の近代化を牽引した北九州市の、海の水質悪化と再生、そして新たな「海ごみ」問題。これらは海だけの問題ではなく、森と海の間で繰り返される水の循環と大きく関わっています。そして、その仕組みは北九州市独特のものではなく、東京をはじめ、日本の多くの地域も同じです。

昨年、bridge が制作を担当させていただいた2本の動画でその仕組みを紹介し、自分たちの問題をして考えてもらいました。



森に降った雨は、川や地下水となって、海にやってくる。  
そして、多くのものを陸から海へと運ぶ。

### 【アクションを考える】

ゲームや動画で、海の世界や環境問題を楽しく学んだ後は、今日の体験からの気づきをまとめました。そして、未来の美しい海のために「今日から(個人で)やろうと思うこと」「仲間と一緒にやれそうなこと」「社会にあったらいいと思うこと(作りたいこと)」を、それぞれ考え、グループ内でシェアしました。まだまだ言葉になりきれない思いも、これからの「VIOLET!!」の活動に、きっとつながっていくことと思います。



## ◎参加者感想 (抜粋)

### ●印象に残っていること (びっくりしたことなど)

- ・タコを食べる動物が人間以外にいたことを初めて知りました
- ・イルカが、人間が近づくと移動したり威嚇したりと、様々な行動をするのが興味深かったです
- ・イルカがプラスチックで遊んでいるのがショックでした
- ・プランクトンの生態など、新しい知識をゲーム感覚で学べて楽しかった
- ・ある動物がいなくなってしまうと、生態系が崩れてしまうので、どの生物も欠かせない存在
- ・たった一つのものが欠けると生態系が崩れることを知り、人間は生態系を守る役割があると気づいた
- ・環境問題を乗り越えた都市を知り希望を持てた
- ・森が海に与えるものや、工業地帯として公害が問題となった地域の現在を、動画で分かりやすく学べた
- ・日本周辺の海 すごい！！
- ・環境問題が人間だけでなく、他の動物にも影響を与えているということを知れた

### ●アクション1：今から個人でやれそうなこと

- ・マイバック・マイボトルを使う、活用する
- ・ゴミの分別
- ・様々な命を経て私たちが生きていることを感じ、感謝する
- ・水の使い方を見直す(手を洗う時は水を止める)
- ・学んだ知識を、ごみを減らす生活を、家族や友人に広める
- ・紙やプラスチックなどのリサイクルした製品を積極的に購入する
- ・節電を心がけて二酸化炭素を出さないようにする
- ・公害について勉強

### ●アクション2：仲間と一緒にやれそうなこと

- ・陸からのゴミが海に流れてしまうことを防ぐために、陸でゴミ拾いを行う
- ・森の大切さを伝える。環境問題について発信する
- ・友達と海・川へ行く

●アクション3：街や学校、山や海など…社会にあったらいいと思うもの

- ・都市などでも自然と触れ合える場所
- ・ポイ捨てしない人の気持ち
- ・絶対零度の空間をつくれるようになり、エネルギー効率を上げる
- ・ボランティア活動の機会を設ける
- ・学校や職場に、もっとリサイクルボックスを設置。リサイクルするとポイントを得られる制度を作る

◎実施後の感想（実施者：海の環境教育 NPO bridge /担当 伊東）

食物連鎖、野生生物の世界、森と海のつながり、多様な海洋プラスチックごみの発生源等、多様な話題を入れ込んだ構成で、参加者に十分伝わるか心配していましたが、振り返りやアクション案をみると、多種多様な意見があり、個々の興味で海の問題を自分ごととして捉えてくれたことが伝わってきました。

とくに、「社会にあったらいいもの」の問い書かれた「ポイ捨てしない人の気持ち」というコメントは、参加者の感性の豊かさを感じるとともに、環境教育の根幹に触れる素晴らしい経験となりました。

◎進行表（概要）

★G：グループワーク（1グループ4～5名） ■ 解説他

開始時間	所要時間	内容	目的	備考（備品他）
13:30	10	<b>挨拶</b> 団体＆講師自己紹介 アイスブレイク		
13:40	30	<b>海の食物連鎖</b> ★G：LTC教材「餌の餌の餌は何？」 ・バラバラに置かれたカードから仲間を探して並べる ■解説：各連鎖の特徴（ラッコ、シャケ&イワシ、オニヒトデ等） 唯一の“生産者”としての「植物」 海の生態系に支えられる「人間」 日本の海の生物多様性（世界の面積1.5%の海に15%弱の種が生息） マイクロプラスチックの生物被害	・「食べる－食べられる」でつながる生物の関係を知る ・生態系の基盤を支える「植物」の重要性を認識する ・海の生き物と「自分」のつながりに気づく ・日本の海の生物多様性の豊かさを認識する →地球温暖化で多様性減、藻場枯れ、サンゴの白化 ・マイクロプラスチックの生物被害のしくみを知る	LTC教材「餌の餌の餌は何？」☆ ・藻場写真（健全／藻場枯れ）
14:10	8	<b>イルカを知ろう1 体</b> ■海洋哺乳類の体（クイズ&解説） イルカ登場：御蔵島のイルカを連れてきました。愛称「クシダンゴ」 ・骨があるヒレはどれ？ 各ヒレの役割紹介 ・哺乳類って何？ 魚類との違い／オスとメスの見分け方 …etc.	・海洋哺乳類としてのイルカを知る	・実物大イルカ模型 ・ドライヤー、延長コード
	12	<b>イルカを知ろう2 生態</b> ■動画視聴：野生イルカの生態（伊豆諸島御蔵島） * 調査方法の説明 移動、休息、ラビング、授乳など * 多様な生物（社会）が共有する地球。一部としての人間社会	・野生生物としてのイルカを知る ・人間以外の生物の社会の存在を認識する ・海洋生物に与える海洋プラスチックごみ被害の認識	・映写機器（PC）＆スクリーン ・御蔵島イルカ生態動画
14:30	5	休憩		
14:35	15	<b>森と海と”自分”のつながり</b> ■視聴動画の紹介 北九州市をモデルに作成された動画 北九州市：高度成長期に工業地帯として急成長、日本の近代化を牽引 公害都市 死の海「洞海湾」 現在は、「環境未来都市認定」「SDGs未来都市」として注目	・森と海のつながりによる生態系サービスを認識する ・自然に及ぼす「人間生活」の現状理解（海洋プラスチックごみ問題）	・PC&スクリーン *PC持参可 ・北九州地図（Googleマップ） ・北九州の歴史写真（工業化、死の海他） ・東京都地図（Googleマップ） ・わかちく史料館動画「私たちの暮らしと海」 ①森と海のつながり ②海洋プラスチックごみはどこから来たの？
14:50	35	<b>アクションを考える</b> ★G：体験の振り返り ・印象に残っていること（びっくりしたことなど） ★G：アクションを考える ①（個人で）今からやれそうなこと ②仲間や家族でやれそうなこと ③街や海、山…社会にあったらいいと思うもの	行動の誘発	* 1グループ 4～5名 ・A3白紙 4枚＋α ×グループ数 ・付箋（4色） ・水性マジック（ブロッカー等） ・セロテープ または掲示用マグネット
15:25	5	<b>まとめ</b>		